

看護基礎教育課程における学生の看護実践能力習得の課題に関する報告

山崎美恵子，梶本 市子，矢野 智恵，吉田亜紀子，中井 寿雄，石川 由美，
片岡亜沙美，中平紗貴子，岡本 雅佳，高藤 裕子，大沢たか子，三浦かず子，
棚田 秀子，吉村 澄佳，池畠千恵子，岡林 美枝，小島 一久

報告

看護基礎教育課程における学生の看護実践能力習得の課題に関する報告

山崎美恵子^{1*}, 梶本市子², 矢野智恵³, 吉田亜紀子⁴, 中井寿雄⁵, 石川由美⁶,
片岡亜沙美⁷, 中平紗貴子⁸, 岡本雅佳⁹, 高藤裕子¹⁰, 大沢たか子¹¹, 三浦かず子¹²,
棚田秀子¹³, 吉村澄佳¹⁴, 池畠千恵子¹⁵, 岡林美枝¹⁶, 小島一久¹⁷

要約：看護学教育のあり方に関する検討会報告で提示された「看護実践能力習得のためにコアとなる臨地実習（平成14年3月26日）」を指針として、本学看護学科の7領域看護実習中における看護実践能力習得の現状の把握と課題を明らかにした。

看護実践能力に関する課題（5項目）、人間関係形成能力に関する課題（7項目）、臨床判断・問題解決能力、マネジメント能力に関する課題（3項目）、看護専門職の役割・責務に関する能力に関する課題（2項目）が得られた。また指針で示されている到達目標の基盤となる「成熟性」に関する課題が新たに抽出された。これらの課題についてさらに検証が必要であるが、本学独自の教育への取り組みの方向性が明確になり、教育の「質」改善にむけた方法の示唆を得た。

キーワード：看護学生、臨地実習、看護実践能力

はじめに

本学看護学科は平成20年4月開設した3年課程の看護系短期大学であり、現在3年目を迎えている。平成21年度から基礎看護実習および各看護領域別の臨地実習を行ってきた。各実習目標は、看護学教育のあり方に関する検討会報告で示されている「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」（平成14年3月26日¹⁾を視野に入れて、実習領域の特性を踏まえて作成し、実習を展開してきた。しかし、全学生が目標達成の状況に至らない現状があり、目標達成に至らない学生への看護教員の指導方法に関する戸惑いや困難感に対して、なんらかの対応を検討する必要があると考えられた。そこで、本研究では臨地実習にお

ける看護実践能力の習得に関する現状を把握し、その課題を明確にすることを目的とした。

研究目的

本学看護学科学生の看護実践能力習得に関する課題を明らかにする。

研究方法

1. 研究デザイン：質的研究
2. 研究対象

対象とした臨地実習領域は、平成21年度後期の急性期看護実習4単位、慢性期看護実習4単位、母性看護実習2単位と、平成22年度前期の基礎看護実習2単位、老年看護実習4単位、小児看護実

^{1*}高知学園短期大学 看護学科 Email: myamasaki@kochi-gc.ac.jp

^{2~17}高知学園短期大学 看護学科

表1 7領域別看護実習評価点

実習領域	中央値	標準偏差値	上限範囲	人数	下限範囲	人数
A看護実習	78.6	± 6.9	85.5以上	12(16.0%)	71.7以下	12(16.0%)
B看護実習	80.3	± 9.3	89.6	15(20.0%)	70.9	7(9.3%)
C看護実習	76.8	±10.7	87.5	17(23.6%)	66.1	16(22.2%)
D看護実習	78.1	±10.8	88.9	16(21.9%)	67.2	11(15.0%)
E看護実習	77.3	± 9.6	86.9	10(13.5%)	67.6	11(14.9%)
F看護実習	76.0	± 7.9	84.0	13(17.8%)	68.0	12(16.4%)
G看護実習	84.6	± 6.0	90.7	7(9.5%)	78.6	7(9.5%)

*表の実習領域は履修時期に関係なく順不同で表示

習2単位、精神看護実習2単位の实習である。この7領域看護実習別の実習評価点の下限範囲にある学生のみ、延べ数76名を対象とした。

3. データ収集方法:

7看護領域別の看護実習評価点の下限範囲であった学生に関して、各教員が問題と考えた場を学生ごとに取り上げデータ化した。

4. データ分析方法

データは質的に分析し、KJ法を用いてカテゴリー化した。

「臨地実習で獲得すべき能力とそのレベル」²⁾と大学教育における看護人材育成³⁾にある①看護実践能力、②人間関係能力、③臨床判断・問題解決能力、マネジメント能力、④看護専門職の役割・責務に関する能力に視点を当てて、整理し分析した。

倫理的配慮

プライバシーの保護と管理について以下のように配慮した。

- 1) データは個人名が特定できないように扱い、プライバシーの保護を厳守する。
- 2) 得られたデータは、研究者が責任を持って管理し、研究目的以外には使用しない。
- 3) 研究に用いたデータは、研究終了後はシュレッダーにて廃棄する。

また、本研究は高知学園短期大学研究倫理委員会の承認を得ている(承認番号14号)。

結果

7看護領域別の看護実習評価点の中央値(表1)は、A看護実習からG看護実習でそれぞれ78.6、80.3、76.8、78.1、77.3、76.0、84.6であった。標準偏差値(表1)はA看護実習からG看護実習でそれぞれ±6.9、±9.3、±10.7、±10.8、±9.6、±7.9、±6.0であった。下限範囲にある学生数(表1)はA看護実習からG看護実習でそれぞれ、12名、7名、16名、11名、11名、12名、7名であり合計76名であった。

7領域の看護実習を担当した教員から出されたデータを質的に分析し、KJ法でカテゴリー化した結果、1.看護実践能力に関する課題、2.人間関係形成能力に関する課題、3.臨床判断・問題解決能力、マネジメント能力に関する課題、4.看護専門職の役割・責務に関する能力に関する課題の他に、5.成熟性に関する課題が明らかになった。

以下順に結果を述べる。

1. 看護実践能力に関する課題

看護実践能力として「看護技術活用能力」と「看護過程適応能力・対象の病態把握とモニタリング能力」の習得が必要である。これらの内容に対する本学の課題は、『看護技術の未熟』、『情報収集能力の不足』、『アセスメント能力の不足』、『計画立案能力の不足』、『看護過程展開知識の不足』であることが明確になった(表2)。

表2 臨地実習で習得すべき能力とレベルに関する課題：看護実践能力

看護系大学・短期大学における習得すべき能力		本学の課題	
		大カテゴリー	中カテゴリー
看護実践能力	看護技術活用能力	看護技術の未熟	看護技術の知識不足
			看護技術の練習不足
			安楽への配慮不足
			看護技術の応用力不足
			学生という立場への甘え
	看護過程適応能力・対象の病態把握とモニタリング能力	情報収集能力の不足	病態の知識不足
			観察の視点の不十分さ
			情報収集・整理の困難さ
		アセスメント能力の不足	関連付けと解釈の困難さ
			アセスメント力の未熟さ
		計画立案能力の不足	看護目標設定の困難さ
			個別性のある看護計画立案の困難さ
		看護過程展開知識の不足	看護の視点にたった問題点の抽出の困難さ
			評価方法が分からない

2. 人間関係能力に関する課題

人間関係形成能力として「コミュニケーション能力」と「ケアリング能力」が必要である。これらの内容に対する本学の課題は、『言葉の意味の洞察力不足』、『患者－看護師関係形成の理解不

足』、『自己表出技術の未熟』、『コミュニケーション技術の未熟』、『感情のコントロールの困難さ』、『対象者に関心を寄せることの不十分さ』、『患者のそばに寄り添うことの困難さ』であることが明確になった(表3)。

表3 臨地実習で習得すべき能力とレベルに関する課題：人間関係形成能力

看護系大学・短期大学における習得すべき能力		本学の課題	
		大カテゴリー	中カテゴリー
人間関係形成能力	コミュニケーション能力	言葉の意味の洞察力不足	相手のメッセージを理解しようとする力の不足
		患者－看護師関係形成の理解不足	患者－看護師関係のあり方の理解不足
		自己表出技術の未熟	自分の気持ちを表出することが苦手
		コミュニケーション技術の未熟	効果的な会話の展開が不十分 患者の反応への対応が困難
		感情のコントロールの困難さ	自己の課題が顕在化し実習に意欲的に取り組めない 精神障害に対する過去のイメージにとらわれる
	ケアリング能力	対象者に関心を寄せることの不十分さ	患者との関わりが浅い 患者や家族のおかれている状況・気持ちの理解不足

			バイタルサイン測定以外に視点が向かない
			患者中心の思考の困難さ
		患者のそばに寄り添うことの困難さ	そばで見守り同じ時間をすごすことが苦手で何かしたがる

3. 臨床判断・問題解決能力・マネジメント能力に関する課題
臨床判断・問題解決能力、マネジメント能力の習得に関する本学の課題は、『問題解決思考の未熟さ』、『時間管理力の不足』、『行動計画立案力の不足』であった(表4)。

表4 臨地実習で習得すべき能力とレベルに関する課題：臨床判断・問題解決能力

看護系大学・短期大学における習得すべき能力		本学の課題	
		大カテゴリー	中カテゴリー
臨床判断・問題解決能力	臨床判断・問題解決能力・マネジメント能力	問題解決思考の未熟さ	問題解決思考の未熟さ
		時間管理力の不足	効果的な時間の使い方が不十分
			計画的な時間配分ができず教員の指示が必要
行動計画立案力の不足	一日の行動計画立案の困難さ		

4. 看護専門職の役割・責務に関する能力に関する課題
看護専門職の役割・責務に関する能力として「対象を尊重し擁護する能力」と「看護専門職の役割・責務を行使する能力」の習得が必要であるが、本学の課題として、『患者を尊重した態度の不十分さ』、『倫理的感受性の未熟さ』であることが明確になった(表5)。

表5 臨地実習で習得すべき能力とレベルに関する課題：看護専門職の役割・責務に関する能力

看護系大学・短期大学における習得すべき能力		本学の課題	
		大カテゴリー	中カテゴリー
看護専門職の役割・責務に関する能力	対象を尊重し擁護する能力	患者を尊重した態度の不十分さ	患者を尊重した態度の不十分さ
		倫理的感受性の未熟さ	倫理的課題に気づく力の不十分さ
			適切な記録物の取り扱いの不十分さ

5. 成熟性に関する課題
看護実践能力、人間関係形成能力、臨床判断・問題解決能力、看護専門職の役割・責務に関する能力に関する課題のほかに、学生の成熟性に関する課題が明らかになった。その現象は表6に示したように、大、中、小カテゴリー化することができた。学生を指導する教員たちが臨地実習中に抱いた戸惑いや困難感から、学生の人間発達過程から見た成熟性の低さが感じられていたが、今回の研究ではその成熟性に関する課題として『社会性の獲得』と『学習習慣の確立』に関する課題であることが明らかになった(表6)。
『社会性の獲得』に関する課題の内容は〈基本的生活態度の未熟性〉〈規律厳守の困難さ〉〈協調性の未熟さ〉〈自己を振り返る力の不足〉であった。また『学習習慣の確立』に関する課題の内容は〈学

表6 成熟性に関する課題

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
社会性の獲得	基本的な生活態度の未熟性	看護学生としての言葉遣いや態度の未熟さ
		常識的判断の不足
	規律厳守の困難さ	看護学生としての容姿を整える力の不足
		実習中の約束事の遵守する力の不足
		報告連絡相談の必要性認識の不十分さ
		自己判断による行動
	協調性の未熟さ	学生間での折り合いをつける力の不足
		実習中の緊張感を乱す発言
	自己を振り返る力の不足	できてない自分を認めることの困難さ
		できない自分に向き合うことの困難さ
学習習慣の確立	学習習慣の未確立	学習方法の未確立
		学習の積み重ねの未確立
	論理的思考の未確立	自己探求力の弱さ
		経験を客観的に捉える力の不足
		現象の中から課題を見出す力の不足
		他学生の経験を共有し学びを深める力の不足
		経験の意味を考える力の不足
		要点力、発表力の不足
	緊張感を維持することの困難さ	学内実習時の緊張感の希薄さ
		臨地実習に臨む緊張感の希薄さ
		終日、緊張感を維持する困難さ
		長期間連続した実習における緊張感維持の困難さ
	学習して臨む姿勢の不足	カンファレンスの意義・目的・運営の仕方への理解不足
		実習に対する意欲、自主性の不足
		事前学習の不足
	他者から学ぶ姿勢の未熟さ	教員の示すモデルに気づかない
	自己健康管理能力の未熟さ	体調の自己管理不足
		自己の体調判断の困難さ

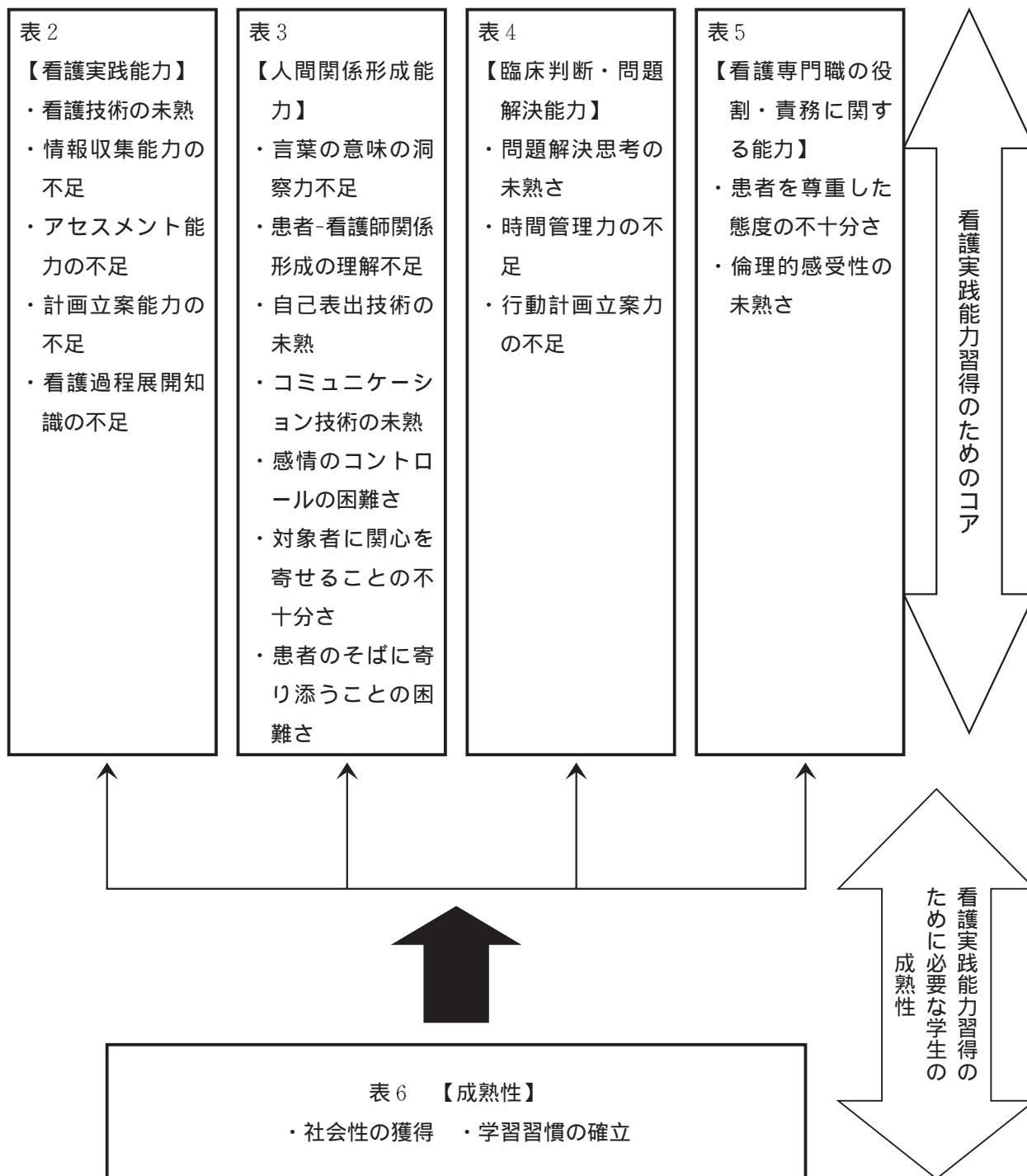


図1 . 学生の看護実践能力習得の課題に関する構造図

習習慣の未確立〉〈論理的思考の未確立〉〈緊張感を維持することの困難さ〉〈学習して臨む姿勢の不足〉〈他者から学ぶ姿勢の未熟さ〉〈自己健康管理力の未熟さ〉であった。

この成熟性に関する課題は、看護専門職として

求められている知識・技術・態度の習得に大きな影響を及ぼしていると考えられ、本学の課題の基盤の部分の部分を占めていると考え構造図として示した(図1)。

考察

看護系高等教育機関（看護系大学・看護系短期大学）卒業者の看護実践能力の向上の必要性和、看護職としての社会的責任、国民の社会的要望に対応した看護の質の向上が求められている。

本研究は平成14年3月に「看護学教育の在り方に関する検討会報告書」で提示された「看護実践能力習得のためにコアとなる臨地実習」を指針として研究分析をおこなった。新設された看護系短期大学として各領域別看護実習を終えた時点で検討会が示した「看護実践能力：個人および家族に看護ケアを行う能力」「人間関係能力」「臨床判断・問題解決能力・マネジメント能力」「看護専門職の役割・責務に関する能力」「教育、研究能力（短期大学のため到達目標から除く）」については、表2～表5に示したような課題が明らかになった。さらに表6に示した成熟性に関する課題が明確になった。平成14年3月26日に示された「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」を目標として臨地実習を展開するための基盤となる成熟性に関して、「社会性の獲得」と「学習習慣の確立」が課題であり、「社会性の獲得」については①基本的な生活態度の未熟性 ②規律厳守の困難さ ③協調性の未熟さ ④自己を振り返る力の不足が課題であり、また「学習習慣の確立」については①学習習慣の未確立 ②論理的思考の未確立 ③緊張感を維持することの困難さ ④学習して臨む姿勢の不足 ⑤他者から学ぶ姿勢の未熟さ ⑥自己健康管理力の未熟さが課題であった。この大カテゴリー2項目とそれぞれ中カテゴリーの項目が具体的な課題となって提起された。

この分析結果から教育の「質」改善にむけて、教育方法や授業展開の工夫をすることや、学生の日常生活の援助や支援について、大学全体で取り組む方向性についての示唆を得ることができた。

おわりに

本研究は「報告」としてまとめたものである。検討会報告書では基本姿勢として「看護学教育は各大学の主体的取り組みにおいてされるべきであるという原則を貫くために十分配慮すること」⁴⁾としている。個性ある短期大学教育と看護職の最低限身に付けておくべき看護実践能力との関連をどう位置付けるかについて本研究結果をさらに深めていきたいと考えている。

本研究のデータは教員の記憶に基づいた現象を記述しデータ化したものであり、内容に偏りがあると考えられ、報告としての限界がある。

参考文献 (References)

- 1) 看護学教育のあり方に関する検討会報告，看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標，2002．
- 2) ワークショップ資料C，臨地実習ワーキンググループ看護実践能力取得のためにコアとなる臨地実習，2002，1-7．
- 3) 看護学教育ワークショップ資料A，大学教育における看護人材育成像，2002，1-4．
- 4) 看護学教育の在り方に関する検討会報告，大学における看護実践能力の育成の充実に向けて，2002，1．

Report

A report on the issue of Students' Acquisition of Nursing Practical Skills in the Nursing Basic Education Course

Mieko YAMASAKI^{1*}, Ichiko KAJIMOTO², Chie YANO³, Akiko YOSHIDA⁴, Hisao NAKAI⁵,
Yumi ISHIKAWA⁶, Asami KATAOKA⁷, Sakiko NAKAHIRA⁸, Madoka OKAMOTO⁹,
Yuko TAKATO¹⁰, Takako OSAWA¹¹, Kazuko MIURA¹², Hideko TANADA¹³,
Sumika YOSHIMURA¹⁴, Chieko IKEBATA¹⁵, Mie OKABAYASHI¹⁶ and Kazuhisa OJIMA¹⁷

Abstract: This paper clarified the current state of students' acquisition of practical skills and problems concerning this in the 7 areas of nursing practice in the nursing course of our college, using the Report presented by the Study Group on Education for Nursing, "Core clinical training to acquire the skills for nursing practice (March 26, 2002)" as a guide.

Issues related to nursing practical skills (5 items), issues of relationship skills (7 items), issues related to clinical decision-making and problem-solving ability and management skills (3 items), and issues concerning ability related to the roles and responsibilities of nursing professionals (2 items) are extracted. New challenges are revealed concerning the "maturity" which underlies the goals shown in the guide. Although those issues need further examination, this paper clearly shows a direction that we should take to carry out education unique to our college. We also gained suggestions for the way toward improvement of the "quality" of our education.

Key Words: nursing student, nursing practice, nursing practical skills

^{1*} Kochi Gakuen College, Department of Nursing, Email: myamasaki@kochi-gc.ac.jp

^{2~17} Kochi Gakuen College, Department of Nursing